

令和7年度 第6回梅坪台地域会議 会議録

■ 日 時 令和7年10月14日(火) 午後7時～午後8時30分

■ 場 所 梅坪台交流館 2階 大会議室

■ 出席者

＜委 員＞	岩崎 洋平	岩松 初男(欠席)	川井 圭子
	鈴木 重久	鎮西 和也	長江 秀昭
	三岡 英隆	山村 史子	依田 武人

＜交流館＞ 杉山 浩子(梅坪台交流館 館長)

＜事務局＞ 塚田 征弘(地域交流課 副課長)

槌井 功二(地域交流課 担当長) 勝野 一城(地域交流課 主査)

■ 内 容

1 開会

2 あいさつ

・鈴木会長あいさつ

3 (1) 地区コミュニティ会議関係について(報告)

(2) 区長会との意見交換(ヒアリング)について(報告)

(3) 市民意識調査結果について(報告)

(4) 今後の議論の方向性について(協議)

テーマ: 地域課題の再検討

～「つながりの希薄化」をどう捉え直すか～

※2班に分かれて討論

(5) 子ども会との意見交換会の進め方について(協議)

■ 議事内容(要約)

＜主な意見＞

(2) 区長会との意見交換(ヒアリング)について(報告)

(3) 市民意識調査結果について(報告)

(4) 今後の議論の方向性について(協議)

2班に分かれて協議

【テーマ】地域課題の再検討～「つながりの希薄化」をどう捉え直すか～

○これまでの課題設定: 「地域と子どものつながりの希薄化」

○新たに見えてきた課題: 「地域全体のつながりの希薄化」

ディスカッションの視点①

地域と子どもに加えて、「子ども同士」「親同士」「世代間」「近隣住民」「自治区と住民」など、つながりには多様な形があります。これらのつながりの状況をどう感じていますか？また、特に希薄だと感じるつながりはありますか？

ディスカッションの視点②

これまでの課題設定「地域と子どものつながりの希薄化」を、地域全体のつながりという視点から捉え直す必要があるでしょうか？また、地域課題を関係者と共有・合意形成するために必要なことは何でしょうか？

【A 班の発表】

視点①「子ども・親・住民…つながりのかたちとその現状」について

- ・子ども会があることで役員を通じて一定程度のつながりはできている。
- ・公園で、子どもが遊んでいるだけでもつながりができている。
- ・組毎でも活動はバラバラで、緑化活動だけというところもあれば、餅つき、懇親会までやるところもありそれぞれ差がある。
- ・子どもからのつながりで親もつながるところも多くあり、親世代がつながるには、子ども世代の年代が近いことも必要。

視点②「子どもから地域全体へつながりの見直しの必要性」

- ・議論の始まりは、子ども会を継続させることから始まった。その先に子どもがつながって、親がつながって、全体として地域がつながっていくというところを目指すことになると思う。
- ・つなぐ会は、事業を実施すること自体が目的ではなく、いろいろな人や地域がつながる将来の目標を持って進めていくこと、まずは、足元のつなぐ会をしっかりとやるということだと思う。

【B 班の発表】

視点①「子ども・親・住民…つながりのかたちとその現状」について

- ・区画整理で新しく入ってきた人が 70%で、旧住民とのつながりがなくなったことが希薄さを感じる要因の一つ。
- ・40%が賃貸に住んでいるその要因は、農家の多くがアパート、賃貸住宅を作ったことがもう一つの要因。
- ・地域のつながりの希薄さはあまり感じていない。ゴミステーションもきれいに使っているし希薄さはそれほど感じない。
- ・民生委員としては、地域とのつながりの必要性を感じていない人も多く、特殊詐欺など人との関係性を分断させられる社会情勢にも問題がある。
- ・親世代のつながりの希薄さを感じる要因として、こども園の保護者会の解散、PTA の活動の不活性化、PTA 会長が人が集まらず別途、個別に案内をしているような状況。
- ・親のつながりを作るには、子どものつながりからで、親のつながり、しいては地域全体のつながりになればと思う。

視点②「子どもから地域全体へつながりの見直しの必要性」

- ・昔は親がつながっているから子どもがつながっていたが、今はそのつながりがなくなってきている。
- ・自治区ごとにつながりの捉え方、感じ方が大きく異なっている。
- ・つなぐ会構想、地域と子どものつながりを作っていこうということですずっと進めてきたことは、多少の課題はあってもやりきることが必要。
- ・東梅坪町区長からは、つなぐ会の対応には1月に組長、2月には評議員、1,000円の予算でも総会に計上する必要がある12月には、地域会議から方向を示すので、もう少し待ってくださいということをお答えしてある。

まとめ

視点①「子ども・親・住民…つながりのかたちとその現状」について

- ・つながりについては、自治区、人によってとらえ方が異なっている。統一的な答え、考え方にはなっていない。
- ・つなぐ会の必要性を感じていない方も正直ある。
- ・A班、B班共通しているのは、世代によって必要性だとか考え方に違いとかのギャップがあり現役若しくは、退職者によっても考え方が異なる。
- ・子どもがつながれば親がつながる。親のつながりか子どもがつながりかどちらかを重点的にやればいいということでもないと思う。
- ・親がつながっていれば子どもがつながるという話もあるが、もとは子どもの時の同級生ということではないかとも思う。

視点②「子どもから地域全体へつながりの見直しの必要性」

- ・自治区そろって動くことがいいのか。分けて動くことがいいのか。
- ・地域全体でとらえ直すかどうかという話については、もともとは、子どもきっかけで地域とのつながりが少ないということで始まっており、その中で子ども会はどうなのかという話になり、運営が難しいという話があって、今まで話してきて、つなぐ会という話が出たところで、自治区が背負うには大変だと拒否反応が出しまった。子ども会という言葉は、気を付けて使わないといけないが、最終的にしたいことは、子どもたちをきっかけに親のつながり、多世代のつながり会えるところに長期的な視点で持って、進めていきたいということにしないといけない。
- ・つなぐ会は、一斉にスタートしたかったが、今の状況を思うとできる自治区からスタートするようにお話しを区長会にして、進めていければいいと思う。
- ・来年、7年でなければだめだということではないので、8年でも9年でも準備ができたらくくは全部の自治区がつなぐ会に入れるといい。
- ・お母さん方はSNSでつながっていて、情報はほしいと考えている。子どもも親も情報は欲しいが、高校になると全く切れてしまう。それは、情報でしかつながっていないからだと思う。
- ・ご意見いろいろありましたが、問題をとらえ直すことではなく、現実的にはやれることから進めようということでもいいか。
- ・12月の区長会に代表者の方で行って、地域会議の2次（案）として、提案してはどうでしょうか。ご理解いただいたところから来年度始める段取り考えている。子ども会の会長さんとの

意見交換会も次にあります。そこでまた同じような意見が出てしまったら次は無理でしょうかから 11 月に打ち合わせをして 12 月に区長会に提案したい。

- ・事務局にお願いがある。議題を決めるにあたって意見させてください。つながりについては、答申をして、市のほうからある程度、子どもを起点につながりを考えていくと回答がありました。梅坪台は他の地域に比べ恵まれているので、大きな事より身近なところから始めている。議題は、以前は事務局から出ていたが、今回は自分たちで考えたが、2 年に 1 回出される意識調査が出た後に議題を考えたらどうか。ある程度、情報源は何を使うかひな形を作っておいてはどうかと思う。2 点目、議題決定後に選定過程、選定理由、目的、計画を決めて、後は目標を決めておかないと途中でこうになってしまう。決めておけば、議論が錯綜したときに、立ち返ればいい。後は議論して素案ができてから区長さんに意見を聞くといい。ご検討をお願いしたい。

（５）子ども会との意見交換会の進め方について（協議）

- ・ 3 部で、意見交換会を実施する。1 団体は、欠席。出席の方は現地集合をお願いする。
- ・ 資料の修正なし。

■ 今後の予定

令和 7 年度 第 6 回梅坪台地域会議

10 月 16 日（木）未定 ～ 梅坪小学校交流館大会議室にて

11 月 11 日（火）午後 7 時 00 分～